

令和2年6月15日

## ～西尾市内で初！ 自動運転の実証実験～ 愛知県の「自動運転社会実装プロジェクト推進事業」が 西尾市で実施されます

愛知県の「2020年度自動運転社会実装プロジェクト推進事業」が、西尾市で実施されることとなりました。本日の定例知事記者会見で発表された事業（添付資料参照）で、西尾市のほか、常滑市（中部国際空港島内）、長久手市（愛・地球博記念公園）の県内3地域で実施されます。内閣府の「未来技術社会実装事業\*」の枠組みが活用される事業です。

西尾市での実験は「生活・観光混在エリアにおける MaaS\*」を実証テーマとし、西尾駅から西尾市歴史公園までの公道をルートに、運転席有人、遠隔監視で運行されます。実験で使用されるのはトヨタ自動車のタクシー型車両「ジャパントクシー」で、自動運転 OS\*「Autoware\*」により走行する仕様です。地域の店舗、観光スポットと自動運転車両で共通の利用ポイントを付与\*し、相互 PR も行い旅客の回遊性を向上させるのも特徴です。

事業は株式会社 NTT ドコモに委託され、同社を幹事会社とする企業グループ（11 社、1 大学）が、社会実装のあり方を技術面、運用面の両面から追及する導入シミュレーションを実施します。

\* 印は添付資料に用語説明・補足あり

### 【市長コメント】

将来の自動運転サービスの実現に向けた最先端の取り組みが、西尾市で実施されることを大変喜ばしく思います。自動運転の技術は、交通事故の削減、交通弱者の移動手段の確保、物流の効率化など、様々な課題解決に加え、市民生活の利便性向上の一翼を担うものとして、大きな期待が寄せられています。西尾市としては今回の事業に対し、最大限の協力体制を整えるとともに、実験で得られた成果や知見をもとに、新たなサービスの可能性を検討していきたいと考えています。

※事業の内容について詳しくは、

愛知県経済産業局産業部産業振興課自動車産業グループへ直接お問い合わせください。  
電話番号 052-954-6376（ダイヤルイン）

問 合 先 市民部 地域つながり課 地域支援担当 山崎  
電話番号 0563-65-2107（ダイヤルイン）

資料の配布目的（告知希望 取材希望  情報提供） 添付資料（ 無）  
会場が非公開等の場合（冒頭のみ公開 全て非公開 一部非公開（ ））

## 2020 年度自動運転社会実装プロジェクト推進事業の実施について

愛知県は、将来の自動運転サービスの実現を目指し、全国に先駆けて 2016 年度から自動運転の実証実験を積み重ね、昨年度からは、内閣府の「未来技術社会実装事業」<sup>※1</sup> の枠組を活用し、遠隔監視等の自動走行の技術に加え、高精度衛星測位技術<sup>※2</sup>、AR（拡張現実）<sup>※3</sup>、顔認証システム<sup>※4</sup>等を掛け合わせ、自動運転によるビジネスモデルの構築を進めてきました。

本年度は、こうした自動運転の実用化に向けた取組を更に加速するため、(株)NTT ドコモを幹事会社とする企業グループにより、商用 5 G<sup>※5</sup>、空港島全域での長期の運行（1 か月程度）、感染症対策を踏まえた車室空間のあり方にも配慮した自動運転コンセプト車両の検討など、社会実装のあり方を技術面、運用面の両面から追求する導入シミュレーションを県内 3 地域において下記のとおり実施します。

### 記

#### 1 実証実験の概要

以下の 3 市（常滑市、西尾市、長久手市）において実施

モデル類型 <sup>※6</sup>	ショーケース <sup>※7</sup>	住宅団地・郊外	集客施設内
実証地域	常滑市	西尾市	長久手市
	中部国際空港島内	西尾駅周辺市街地	愛・地球博記念公園
実施ルート（予定）	空港ターミナルビル～国際展示場に至る区間	西尾駅～西尾市歴史公園	大芝生広場周辺
道路種別	公道	公道	閉鎖空間
実証テーマ	空港島全域における自動運転車両による移動	生活・観光混在エリアにおける MaaS <sup>※8</sup>	屋外公共施設における新たな車室空間体験を伴う移動
使用車両	小型バス車両	タクシー型車両	自動運転コンセプト車両
特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転席無人（一部区間）の小型バス運行</li> <li>・商用 5 G<sup>※5</sup> を活用した遠隔監視等</li> <li>・交通事業者による 1 か月程度の運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転席有人、遠隔監視</li> <li>・地域の店舗、観光スポットと自動運転車両で共通の利用ポイント付与<sup>※9</sup>、相互 PR も行い旅客の回遊性を向上</li> <li>・地域の主要幹線道路での自動運転車両の運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五感（振動、香り、光、音）を刺激する機器類による車内演出</li> <li>・景色とデジタルコンテンツを重ねて表示可能な「透明ディスプレイ」</li> <li>・感染症対策を見据えた新たな移動空間</li> </ul>

○最終的な実証実験ルートや実施時期は、愛知県警察、施設管理者等との調整を経て決定し、改めて発表する。

○今後の状況により、実証実験の内容について変更の可能性あり。

○実証実験は、消毒・換気等を徹底した上で実施する。

## 2 事業実施体制

株式会社NTTドコモに事業委託

同社を幹事会社とする企業グループで事業実施【11社、1大学】

企業名等	主な役割
(株)NTTドコモ	事業統括、通信環境構築、コンテンツおよびサービスプラットフォームの提供、車両調達等
名古屋鉄道(株)	交通事業者としての運行助言等
名鉄バス(株)	自動運転バスの運行支援
名鉄東部交通(株)	自動運転タクシー型車両の運行支援
(株)メイテツコム	顔認証システムの提供
アイサンテクノロジー(株)	車両の提供、3Dマップ <sup>※10</sup> 作成、実証実験の実施
(株)ティアフォー <sup>注1</sup>	自動運転OS <sup>※11</sup> (Autoware <sup>注2</sup> )の運用支援
岡谷鋼機(株) <sup>注1</sup>	実証実験の支援
損害保険ジャパン(株) <sup>注1</sup>	リスクアセスメントと走行中の安心見守り
愛知製鋼(株)	MI センサ (超高感度磁気センサ) を用いた磁気マーカシステム <sup>※12</sup> の提供
国立大学法人名古屋大学	実証実験におけるアドバイス
PwC コンサルティング(合同)	ビジネスモデル構築、モニター調査等

下線は今年度新規参画企業

注1 アイサンテクノロジー(株)の外注先として参画

注2 「Autoware」はThe Autoware Foundationの登録商標

## 3 実証車両

以下の3車両を使用する。

車両名	小型バス車両「ポンチョ」	タクシー型車両 「ジャパントクシー」	自動運転コンセプト車両
			開発中
仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野自動車「ポンチョ」をベースに、自動運転システムを実装</li> <li>磁気マーカシステム<sup>※12</sup>による経路認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動運転OS<sup>※11</sup>Autowareにより走行</li> <li>トヨタ自動車「ジャパントクシー」をベースに自動運転システムを実装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴルフカートをベースとした近未来型モビリティ</li> <li>自動運転OS<sup>※11</sup>Autowareにより走行</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転席無人(一部区間)かつ遠隔監視有での運行</li> <li>交通事業者による運行支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転席有人かつ遠隔監視有での運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客席のみ運転席や操舵装置なし</li> <li>感染症と共存する社会における新たな自動運転車両の車室空間を自動車関連企業と開発中</li> </ul>

## 用語説明・補足

※1	未来技術社会実装事業	内閣府が、地方自治体を対象に、AIや自動運転、ロボット、ドローンなどの近未来技術等を活用した地方創生に関する事業を募集し、優れた取組について関係省庁が総合的に支援する事業 本県は、2018年8月に採択
※2	高精度衛星測位技術	衛星位置情報を電子基準点などにより補正し精度を高める技術
※3	AR（拡張現実）	現実世界の風景にデジタルコンテンツを重畳して表示することにより、情報提供を可能にする技術
※4	顔認証システム	顔写真から顔の特徴量を数値化し記憶することで、カメラに映し出された顔が本人かどうかを判断する技術。スマホのロック解除等にも実用化されている。
※5	商用5G	通信キャリアがサービスとしてスタートした第5世代移動通信システム。高速・大容量が特徴
※6	モデル類型	未来技術社会実装事業への提案において、社会実装が見込まれる地域を類型化し、モデルとして県で設定したもの
※7	ショーケース	最新技術を一般の方等に対して紹介、説明する機会とするもの
※8	Ma a S	“Mobility as a service”の略で「サービスとしての移動」
※9	地域の店舗、観光スポットと自動運転車両で共通の利用ポイント付与	自動運転車両の利用者に共通ポイントを付与する。また利用者にルート周辺の商業事業者への立寄りを推奨し、立寄った利用者には店舗から更に共通ポイントが付与される仕組みを作る。これにより利用者の回遊性を高め、交通手段と異業種との連携を図る。
※10	3Dマップ	センサーにより捉えたデータを基に3Dの地図を作成し、自動運転車両の走行経路を設定する。
※11	自動運転OS	「自動運転オペレーティングシステム」の意味であり、自動運転システムを構成する様々なソフトウェアを統括するソフトウェア
※12	磁気マーカシステム	道路に敷設された磁気を発するマーカを、車両に取り付けられた磁気センサーで読み取り、自動運転車両を運行する方式